

八乙女

編集 南山見公民館
発行

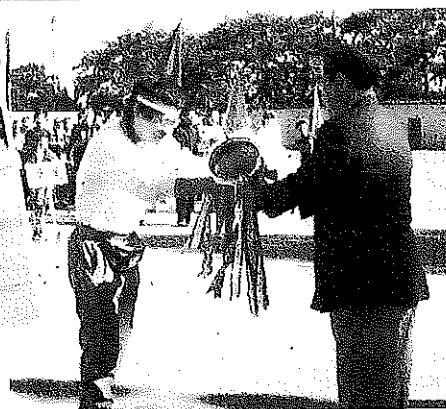
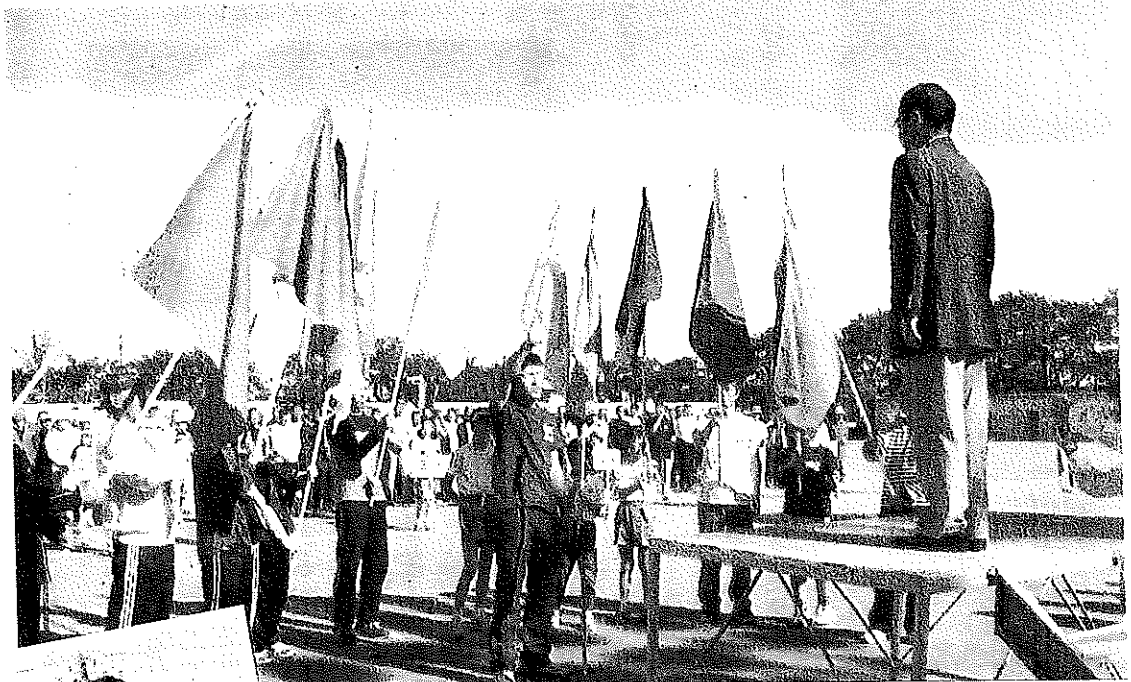
平成15年10月31日発行

No. 77

富山県東砺波郡井波町川原崎
TEL (0763) 82-5176

中天に月まんまるや芋の露

富田ミユキ



第32回

町体育祭

南山見地区監督

田村紀光

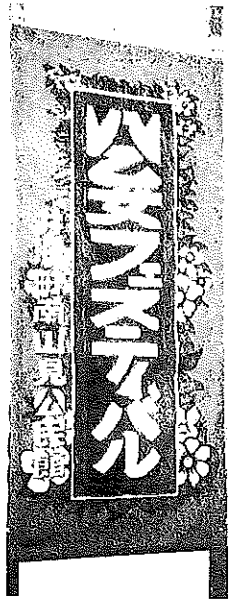
第32回町体育祭が秋晴れの十月五日に十二組に分かれ、十種目で競技されました。

午前中の五種目は、練習不足と不運からか参加者全員で競技に臨みましたが、昼食時の順位は三位でした。午後の部の最初の種目は五位で挽回どころかさらに後退しました。

この時は参加賞かと思いましたが、「玉入れ」、「障害物レース」、「綱引き」、「年代別リレー」とその後の四種目全て一位となり優勝できました。その中でも「綱引き」は、山見地区との直接対決があり最初の30cmを守つての優勝でした。

結果は、小差で南山見チームが総合優勝となりました。今回も南山見地区の団結力、底力を示す大会でした。

ご尽力頂いた地区の皆様から感謝申し上げます。



日中は小雨にみまわれ、屋外での開催が危ぶまれた天候も回復。

ソフトバレーボール大会が終了するやいなや、行灯を飾る人、屋台を準備する人で、八乙女フェスティバルの会場作りが手際よく進む。



やがて行灯や、ちようちんに灯がともり、浴衣姿で盆踊りを楽しむ輪がしだいに膨らんだ。回りでは各種団体主催の模擬店が会場を盛り上げ、繁盛し歓談もはずんでいた。

青少年郷土民謡の全国大会で一位を獲得された林瑞希さんや、栗菜さんのステージ発表が始まり、会場はクライマックスとなった。

最後は、花火大会、そして恒例の抽選会と続き、商品を狙って全員が一喜一憂で盛り上がり、約五百人が楽しい夏の夜を過ごした。(壮年部 森 哲男)



記録的な冷夏、長雨の影響からか今大会は、小学校体育館での開催となりましたが、室内であっても外と変わらぬ熱戦が繰り広げられました。その中で清玄寺チームは十三年に引続き優勝することが出来ましたが今回の優勝は特別な思いがあります。それは公民館主催バレーボール大会発足以来、清玄寺チームの育ての親であり、ながきに渡り清玄寺チームの監督としてチームを指導してこられた亀田信一さんが急逝されたことです。スポーツに殆ど縁のない清玄寺の人たちを、練習によつてチーム作りをされた亀田さんの教えを守り今年も全員参加で朝練習を行いました。今年も亀田さんの意志を引継いで頑張らなくてはという思いが皆にひそかに有ったものと思います。

第24回 ソフトバレーボール大会

清玄寺より素晴らしいチームが幾つもある中で優勝できたのは「練習で培われた体力」や、「チームの和」が少し良かったのかなと思います。その清玄寺チームも選手の高齢化の問題がありますが(九戸の町内なので)いつまで経っても元気な人が約二名程いますので当面は大丈夫でしょう。

以上、
こんな清玄寺チームですが今後とも温かく見守りください。

(清玄寺町内会長 亀田吉和)



地区
体
育
祭

九月二十一日、第二十六回地区体育祭はソフトバレーボール大会と同様に雨にたたられ小学校体育館での開催となりました。

今年のコシヒカリの刈取適期と重なり参加者減を心配していましたが、朝からの雨の影響で幸運(?)にも多数の参加者があり、盛大に体育祭が行われました。



競技種目では、男女別々の種目が無くなり、全て男女共同参加型の競技となったり、小学生に男女分けが無くなるなど今年から大きく変わった点が幾つかありました。

さて、我々二組白チーム(東清連チームとも言っております)は今回結果的に優勝という素晴らしい成績を収めることが出来ましたが、体育祭に関しては久しく優勝とは縁の無いチームで、やれ初めての優勝だとか、やれ十五年ぶりの優勝だとか言っている程のチームです。その結果に関してウレシイのは勿論ですが、正直なところ驚きで一杯で、いまだに信じられません。



当日競技に出たいだいた方、応援に駆けつけていただいた方の御協力と団結力の賜物と感謝申し上げます。(二組監督 亀田吉和)



神秘の山 『石動山』

田村良樹



古来より、森羅万象を司る三つの石（動字石・朝字石・竹字石）の光

により福智愛の三徳を生ずると言われていた。石動山縁起によれば「動字石が天から降ってきて山が揺れ動いた」とある。その後「石動彦神（いするぎひこのかみ）」を祀るようになり「伊須流岐比古神社」が建てられた。こうした古い石動山信仰に仏教が結びつき、神に奉仕する仏教徒らによって次第に寺院の形が整えられ、衆徒は皇室の安泰を祈り、自ら修験修行に励みながら各地に分霊社を建立して「いするぎ山伏」と呼ばれた。小矢部市の『石動』もその名残らしいが社の存在までは聞けなかった。

最盛期には三六〇余の院坊と三〇〇〇人の衆徒を擁したが、南北朝の戦乱や前田利家入国時の石動山合戦で全山焼き討ちされ、そして明治の神仏分離・廃仏毀釈で瓦解の運命をたどったとのガイドさんの説明を聞き、ブナ林の涼風とマイナスイオンを体感しながらの境内のウォーキングは、心身ともにリフレッシュし、疲れを癒してくれた。
大宮坊は発掘調査の成果と史料に基づき、五年掛りで昨年復元されたばかりとか……。
世が世なら足を踏み入れることすら許されぬ勅使橋から御成門をくぐると、ほのかな檜の香りが新鮮で心地良かった。
神仏習合といった私には理解し難い神秘の時代を垣間見た思いで石動山を後にした。

最後に、お世話戴いた主催者各位並びに共に楽しい一時を過ごし下さった皆様に感謝申し上げます。

『石動山』ウォーキング

林 栄三

まだ梅雨も明けぬ七月二十日石川県鹿島町へ。気にしていた天候も皆さん平素の行ないの良い方ばかりのお蔭で最高の史跡めぐり日和。石動山資料館前で説明を聞き、登山コースはA B二通りのコースがあり、ガイドさんの説明等の都合上二班に分かれ、各バス毎に登ることになりました。私達一号車グループはAコースガイドのMさん。「サア！行きましょう……」大きく呼吸をして後に続く……。伊須流岐比古神社の鳥居をくぐり、講堂跡、イワシゲ池、拝殿、本殿等と説明を聞きながらの山登り。説明が終ると「ハア！イ次」と急な坂道や石段もさつさと登って行かれる。みんなも負けじと体力気力でついて行く。五重塔跡、開山堂、梅宮跡等を見てさあ！山頂。そこには石動山を護る五つの神の座す地、大御前跡地、みんなで記念写真を撮り一休み。
標高五六五mの山頂に吹き寄せる涼風に少し汗ばんだ身体を癒され、これより下山路。ブナ林や火宮跡行者堂等の説明を聞き、午前コース終了。集合地に戻る道端に綺麗な香のよいユリが咲いていて石動山ユリだそうです。芝生の上で昼食を済ませ、午後のコース、国指定史跡石動山大宮坊（昨年十一月に完成）を見、説明を聞き最後に資料館内を見て終わりました。
本当に楽しい企画を有りがとう御座居ました。良い思い出です。



『あしたの森井波』植樹祭に参加して

木彫の町井波に、次代に輝く緑の森をつくる「あしたの森 井波」が、8月24日「芸術の森公園」で開催され、植樹祭が行なわれました。



開会式では「井波、花とみどりの少年団」の武田貴美さん、田村沙織さん、直江莉佳さん、前川実衣菜さん、前川幸穂さん、林亮君の六人が「明るく郷土をつくるため、花と緑に親しみ、しっかりと育てます」と、緑化への誓いの言葉を力強く述べました。その後、梅沢北日本新聞社長、清都町長とともに「シダレサクラ」の記念植樹を致しました。
これからも、「井波、花と緑の少年団」の皆さんと共に、さらに緑を大切にし、木の香りが漂う素晴らしい町づくりを願っています。
（井波花と緑の少年団 育成会長 前川哲郎）

三世代交流

ミニマラソン・ラジオ体操の集い

た朝のひと時でした。
また、その夜には、認定心
理士の山本寿美先生をお招き
して講演会が開催され、テ-

予報がはずれ、
なんとか頑張っ
ている空の下で
のミニマラソン・
ラジオ体操第一・
第二・みんなの
体操を行い、終
るころには、大
勢の額に汗。三
世代みんな一緒
に快い汗を流し

待ちにまつた
子供達の夏休
みが始まった七
月十九日、南山
見地区恒例の三
世代交流ミニマ
ラソン・ラジオ
体操の集いを行
いました。



マは「エコグラム」
「今、あなたの心の
状態のぞいてみませ
んか?」「エコグラ
ム」とは、今の自分
の心の状態をグラフ
化することなのです。
自分を見極めた上で
子供達または家族と
接してみても……
ということなのです

が、意外に自分の思っていた
グラフが作り出されないもの
で、今の心の状態を思い知ら
されました。時折自分を見つ
め直すという意味で、二、三
ヶ月ごとに、「心のグラフ」
を作ってみるのもいいかし
れません。

(町民会議 松井三良)



地区探勝会に

参加して

岩崎保子

八月二十二日、久しぶ
りの晴日に恵まれ「ま
ちなみアートinいなみ」を
訪れました。



八日町通りの各工房を尋ね、
木の香りを嗅ぎながら店内に
展示された立派な伝統工芸作
品を楽しく拝観いたしました。
格子戸一面の「活け花」や、
仏師さんが白い布でおおって
作品を製作されていたのが、
とても印象的でした。
次に井波八幡宮に参拝し、
石垣も積み替えて改修された
「白浪水」の仏堂の境内での
お茶席の一期を美味しくいた
だきました。
続いて樹齢六百年と言う松
島の大杉を見上げながら、大
門川河川公園での「いなみ国

社会奉仕



際木彫刻キャンプ」を見学。
チェンソーやノミの音が響き
独特の活気が漲っていました。
見学を終え、木彫りの里
で汗を流し、楽しく交流参加
できたことを感謝しました。

社会奉仕活動の様子



九月二十日「全国一斉社会
奉仕の日」に合わせ、早朝に
もかわらず百人余りの方々
の参加をいただき、農村公園・
グラウンド・公民館周辺の清掃
奉仕をしました。



残念ながら天候は好ましく
なかったが、皆さん天候に左
右されず一生懸命に清掃奉仕
をしていただきました。
老齢に伴って生ずる心身の
変化を自覚して常に健康を保
持し、長年培った知識や経験
を通して社会奉仕、社会貢献
に、今後ともご理解ご協力を
お願い申し上げます。

(南山見老人クラブ連合会
武田久信)

寿賞

おめでとう
ござります

米寿 (八十八歳)

小橋 松子 (戸板)
朝倉 花子 (里領)

喜寿 (七十七歳)

蓮田 香 (院瀬見二区)
山本 みどり (院瀬見四区)

前川 きくい (院瀬見一区)
田中 たまき (院瀬見三区)
吉田 あや子 (院瀬見三区)
山本 みさ (院瀬見四区)
狩野 しげ (東城寺)
銅 花子 (連代寺)
箭原 千代 (連代寺)
箭原 成子 (連代寺)
梅村 シナ (志観寺)
高瀬 浄泉 (谷)
山崎 花子 (川原崎)
中村 はつゑ (南山見団地)

傘寿 (八十歳)

高橋 豊一 (院瀬見一区)
山田 信子 (院瀬見二区)
田村 玉喜 (院瀬見三区)
中嶋 ため (院瀬見三区)
山田 正次 (東城寺)
山本 順作 (谷)

高倉 一夫 (志観寺)
前川 正男 (谷)
山本 綾子 (谷)
宮田 忠信 (谷)
岩崎 喜代野 (里領)
篠原 悦雄 (川原崎)
池田 ユリ子 (沖)

環境美化運動実施



花だん づくり

花と緑の少年団

6月8日に、花とみどりの銀行の皆さんに花の名前、植え方等を教わり乍ら、公民館の花だんづくりを行いました。夏に可愛い花が咲いてくれることを願いつつ…。また、その後、行灯づくりを行いました。楽しい作品がいっぱい並び、火がともされるのが楽しみです。

(事務局)



六月二十二日(日)に、地域の環境美化の一環として、南山見地区全戸の家屋および施設の建物周辺の害虫防除を目的に薬剤散布を行いました。

今年、地域住民の皆さんの要望で例年より一週間ほど早く散布しました。当日は、晴天に恵まれ成年部会員および役員の協力を得て、散布の抜けもれがないよう連絡を取り合い乍ら実施しました。また、担当区域が終わり次第、終了しない区域への応援に行き予定していた時間より早く終了することができました。これも地域住民の皆さんの協力があったからこそです。ありがとうございます。

最後に、今年度の反省点を来年度に活かせるよう役員会で話し合いをしています。

(公民館成年部 滝田豊史)

シルバー
軽スポーツ教室

町教育委員会の協力で、シルバー軽スポーツ教室が6月21日に開催されました。前回同様、ラージ卓球、バルバレー、バグゴの競技に心地よい汗を流し、親睦を深め、仲間づくりが出来たと思います。

(事務局)



第5回 スーパーキック ベースボール大会

恒例のスーパーキックベースボール大会が七月二十九日、三十日に地区より八チームの参加を得て、開催されました。心配していた雨も上がり夏の夜を楽しみました。グラウンドが今年の長雨の為、滑ったり転んだりの珍プレーや好プレーで、応援の方々も楽しんでいただけたと思います。

成績は次の通りです。

優勝 院瀬見第四チーム

次勝 連代寺チーム

参勝 沖

清玄寺チーム

(事務局)

行事予定

11月9日(日) 第26回南山見地区八乙女文化祭

11月17日(月) まちづくりを語る会

11月26日(火)～ 第20回南山見地区ビーチボール大会

12月7日(日) 児童クラブクリスマス会

平成16年

1月4日(日) 新年のつどい

受賞のよろこび

富山県スポーツ奨励賞

さわやか賞 篠原正之
 箭原秀樹

地区スポーツの道場

バレーボールコート一面ほどしかない小さな体育館。

ただ、この南山見体育館には、輝かしい歴史がある。

この体育館からは、ビーチボールの朝日大会やジャパンカップなどの全国大会での優勝や入賞など、全国で名を馳せたチームが練習している。

今も、来年の三月に開催されるジャパンカップ愛知大会に出場するチームがこの体育館で練習している。

この南山見体育館に輝かしい歴史が、また一つ増えることを期待しよう。

(スポーツ推進委員 青山 誠)

お知らせ

第二十六回地区八乙女文化祭の舞台発表の出演者、及び展示作品を募っています。参加希望の方は、お早めに事務局までご連絡お願い致します。



歳月の流れは早いもので、この公民館報「八乙女」も昭和五十二年十月の発刊以来、今回で七十七号「喜寿？」の発行となりました。

この公民館報には、発行の都度その間の行事や活動がすべて収録されているので、言わば、当公民館活動の歴史が刻まれているわけです。

どんな時代が来ようとも、どんなに時代が変わろうとも、皆で力を合わせ、「先人達が築いた偉業や精神」を後世に引き継いで行きたいと念願致しておりますので、これからも、公民館活動やご投稿に一層のお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

(編集委員一同)